

第4学年 道徳科指導案

場 所： 4年2組教室

授業者 XXXXXXXXXX

Ⅰ 主題構成表

主題名 「心と心のつながり」 教材名「心と心のあく手」

■内容項目 B—(6) 「親切、思いやり」 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	■内容項目から見た児童の実態 本学級の児童は、素直で優しい気持ちをもった児童が多く、これまでも誰かに親切にしたりされたりした経験がある。しかし、子どもたちの日常生活から考えると、誰かのために何かをしてあげるといった一方的な行動を親切と考える子どもたちが多く感じる。親切にしたいと思って行動するが、実はそれが相手のためになっていなかったり、必要以上の親切になってしまったりすることがある。 ■要因 相手の感じ方や考え方が自分のそれと同様であると思込み、相手の気持ちを尊重することは後回しになってしまう。 相手のことを考えた時、時には見守り、心の中で応援することも親切であることを知らない。	■教材の分析 大きな荷物を抱え苦しそうにしているおばあさんに「荷物、持ちます。」と声をかけた「ぼく」の親切と、これまでの児童の「親切」に対する価値観が重なり合うため、児童にはこの時の「ぼく」の気持ちを十分考えさせたい。 母親の話から、おばあさんの状況について知った「ぼく」は、再び不自由な足を引きずりながら歩くおばあさんを見かける。おばあさんの思いを理解した上で、おばあさんに声をかけるべきなのか、すべきでないのか迷う「ぼく」に対して多様な考えを引き出したい。そして「おばあさんのために何ができるのだろうか。」と考え行動に移した「ぼく」の心情を考えることで、価値についての理解を深めていけるようにする。
■ねらい おばあさんに直接声をかけずそっと後ろを歩いて見守った「ぼく」の思いを考える活動を通して、本当の親切とは相手の気持ちを想像して、自分に何ができるのか考えて行動することだということに気づき、相手の立場や気持ちを尊重して進んで親切にしようとする心情を育てる。		
■研究内容との関わり 研究内容1—(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・価値に触れる発問の位置付け 研究内容1—(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・価値理解を促す主発問の位置付け 研究内容1—(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り、よりよい生き方について考える場の位置付け 研究内容3—(1) 主体的に地域貢献する地域講師との出会い ・ゲストティーチャーを招き、考え方や生き方を学ぶ場の位置付け	■基本発問(◎中心発問) ○声をかけたけれど、おばあさんに断られた「ぼく」はどう思っただろう。 ◎ぼくはどんな思いでおばあさんの後をそっとついていったのだろう。 ○ぼくは結局何もしていないから、「親切ではない」のではないだろうか。	

2 本時の展開

	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>1. 価値への方向付けをする。</p> <p>○おばあさんの重たい荷物をもってあげた「ぼく」についてどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切。 ・優しい。 ・真似したい。 <p>○おばあさんの重たい荷物をもってあげなかったらどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もしないのは冷たい。 ・親切でない。 ・かわいそう。 	<p>研究内容1-(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <p>教材の一部を前もって伝えることで、視点をもって教材を読むことができ、「親切・思いやり」について児童が持っている概念を想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親切・思いやり」について考える。
展開前段	<p>2. 教材「心と心のあく手」の範読を聞いて話し合う。</p> <p>○声をかけたけれど、おばあさんに断られた「ぼく」はどう思っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫かな。心配だな。 ・せっかく声をかけたのに残念だな。 ・損した。 ・声をかけるんじゃなかった。 ・僕だって約束があったのに。 ・遠慮しなくてもいいのに。 <p>◎ぼくはどんな思いでおばあさんの後をそとついていったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさん大丈夫かな。 ・助けようかな、どうしよう。 ・おばあさんは自分で歩きたいのだから、声はかけてはいけない、でも気になる。 ・おばあさんの歩きたいという思いを大事にしたい。 ・おばあさんのことを助けたいし、おばあさんの気持ちも分かるから、せめて何かあったら行けるように見ていてあげよう。 <p>○ぼくは結局何もしていないから、「親切ではない」のではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親切」。おばあさんの気持ちを考えているから。 ・おばあさんの気持ちを考えて上で、見捨てずに、何かしようとしているから。 ・おばあさんのことを心配して、見守っていたから。 ・おばあさんの気持ちと、ぼくの気持ちとが重なり合ったときが、「親切」。 	<p>研究内容1-(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いきって声をかけたのに、断られてしまったぼく。「ぼく」の親切な思いや行動が、相手に断られた時の「声をかけなければ良かった。」という後悔の気持ちに十分共感させる。 ・おばあさんの本当の気持ちを考えさせることで、相手の状況を把握させる。 <p>(予想される繰り返し発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けたい時ならば声をかければ? ・心配ならば、声をかければ? ・思いを大事にしたいのならば、そのまま行ってしまえばよいのでは? <p>【補助発問に対する繰り返し発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」のどんなところが、「親切」なのだろうか。 ・「親切」とは相手の気持ちを想像して、自分に何ができるのかを考えて行動することだということをおさえる。
展開後段	<p>3. 価値を共有する。</p> <p>○ゲストティーチャーの説話を聞き、相手の気持ちや立場を尊重する思いやりの大切さについて理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでもやってあげることが親切ではないんだ。 ・「親切」とは、相手の思いを聞いたり、考えたりして行動することが大切なんだ。 	<p>研究内容3-(1) 主体的に地域貢献する地域講師との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを招き、考え方や生き方を学ぶ場を位置付ける。相手の気持ちに寄り添い、必要な支援をしたり、時には見守ったりすることも思いやりであることの一層理解を深める。
終末	<p>4. 振り返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを一度よく考えて、その人がどうしてもらいたいかを聞いて考えたりして、行動に移したい。 ・いつもは困っている人がいたらすぐに助けていたけれど、相手のことを考えるなら、時には見守ることも親切なんだと分かった。 	<p>研究内容1-(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日、分かったことや思ったこと ・これまでの自分の経験 ・今後の自分に生かしたいこと